



梶 第 4 0 2 4 号

平成20年10月20日

国土交通省

道路局長 金井道夫 様

高知県梶原町長 中越武義



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

標記の件につきまして、別紙のとおり提出しますのでよろしくお願い申し上げます。

## 今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

高知県梺原町

道路は、活力ある地域づくりの推進及び緊急医療、福祉のサービスなど住民が地域生活を営む上で最も基本的で必要不可欠な社会基盤である。

その基盤づくりは、道路特定財源により効率的、計画的に整備されており、このことによって、地方及び中山間地域の道路の整備は飛躍的に向上したものの、中山間地域である本町は、中心部と各地区を結ぶ唯一の幹線道路も未だに曲路で、降雨のたびに落石や崩土が頻繁に発生し、危険と隣り合わせの中で通行を余儀なくされ、死亡事故も起こるなど命さえ守ることができない状況にあり、依然として都市等との地域間格差は縮まっていない。

さらに、政府は本年5月、平成21年度から道路特定財源の全額一般財源化を明示した「道路特定財源に関する基本方針」を閣議決定し、必要と判断される道路は着実に整備するとともに、道路の中期計画についても、10年の整備計画を5年に見直すことを明らかにした。

本来、道路特定財源は道路整備の目的税であり、これを他の目的に転用することは、課税の趣旨を逸脱するもので、一般財源化することは納税者に対する約束違反である。

その目的を変える場合は、当然暫定税率を引き下げることとも考慮すべきであり、この度の閣議決定について、私たちは到底賛同できるものではない。

特に、このままでは自動車しか交通基盤のない山間地域のガソリン使用者の負担が増し、ますます地域間格差が拡大することは必然であり、道路特定財源の一般財源化については断固反対する。

そうした中、新たな中期計画の策定にあたっては、地方の意見を十分に聴いた上で、降雨時などの通行規制解消効果や救急搬送時間の短縮効果など、安全・安心を確保する「命の道」の評価を費用便益分析を含む事業評価の見直しに十分反映してもらいたい。

また、中山間地域は、日本の国土を保全し、命の水を育み、そしてCO2を吸収する森林を整備するなど重要な役割を担っており、そこに生活する住民の道というものをきちんと評価し計画に反映していただきたい。

今後の道路整備のあり方に対し、次の事項について要望します。

- ① 地域間格差を是正し、地方が元気になるための広域ネットワーク道路の整備を確実に進めること。
- ② 暮らしのために必要な地方の道路整備に対しては、十分な予算措置がなされること。
- ③ 地方の道路整備を促進するための地方道路整備臨時交付金及び貸付金制度を継続するために、「道路整備事業財政特別措置法」にかわる新しい法整備を行うこと。なお、現行の交付率の堅持及び貸付金の償還に対しても一定の財政支援を行うこと。
- ④ 道路特定財源制度の目的から逸脱した支出・無駄な支出の根絶を図り、地方の道路財源に充てること。

## 今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

### ②-1地域の現状と抱える課題

高知県梶原町

#### ○現状

梶原町には3本の国道(197号、439号、440号)と6本の県道が町内を縦横に走り、住民の産業活動や教育、医療、福祉など根幹となる生活基盤を支えている。

しかし、国道197号、440号を除いては殆どが未改良道路であり、町の面積が236km<sup>2</sup>と広いことから、町の中心部まで車で40分近く要する地区も存在している。

また、国道197号を除いた国道、県道は、連続降雨量が200mmを超えると通行止めになるため、日常の生活に支障をきたすなど住民の不安・不満の一因になっている。

高齢者比率が40%に迫る中、高齢のドライバーも多く、狭隘な未改良道路を運転することは危険と背中合わせであり、死亡事故も発生するなど神経の消耗度は激しいと言わざるを得ない。

公共交通機関が発達していない地域にとって、また、そこで生活する上で道路は欠かすことのできないインフラで、まさに命の道である。

その命の道を、我が町の住民は「自分たちが利用する道路は自分たちで管理しよう。」との思いで、国道・県道をはじめとする生活道路の管理を県から受託し、その維持に努めている。

#### ○課題

中山間地域においては、救急車のすれ違いができない道路や降雨のたびに起こる土砂崩れ、落石など、その都度、通行止めが発生し集落が孤立することもある。

命に格差があってはならない訳で、中山間地域に居住する住民の安心・安全を確保、保障することが大きな課題と言える。

また、中山間地域は少子・高齢化が進む中、貴重な生産年齢の若者を都市部に出し、残った高齢者を中心に国土保全やCO2を吸収する森林整備、食料生産、日本の原風景である歴史、文化の継承・保存など日本にとって欠かすことのできない役割を担い、それを果たしてきた。

しかし、このままでは中山間地域が疲弊しきってしまう恐れがあり、中山間地域の住民が自信と誇りを持って日本の国土を守っていくことができる基盤整備を如何に推進することができるかが課題である。

## 今後の道路行政についての意見・提案

様式 ③

### ②－2地域の目指すべき将来像

高知県梶原町

森林が町の面積の91%を占めており、この森林から生まれた空気と水が、私たちの生命を支えている。

また、森林は林産物等の生産財としての価値をもたらしてくれるだけでなく、癒しや潤いといった保健・環境財としての価値をももたらし、私たちの暮らしを豊かにしている。さらに、国土保全や災害防止といった公益的な機能も発揮している。

そんな中山間地域と都市部が共存共栄していくためには、相互の果たすべき役割をきちんと理解し認め合うことで、誰もが「健康のよろこび」、「こころの豊かさ」、「環境の快適さ」を実感できる地域社会を築きあげることである。

森林と水と共生する資源循環型の社会を築き、守り、後世に伝えていくことが、中山間地域の今に生きる私たちの役割であり使命であって、その根幹、基盤になるのが道路である。

# 今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

高知県梼原町

| ○重点事項            | ○代表事例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | ○期待する効果や評価等                                                                                                                                                                 | ○その他 |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| <p>・地域活性化の向上</p> | <p>これからは、地方分権による住民自治が地域社会づくりの基本であり、住民自らの責任と権利に基づく行政への積極的な参画が不可欠である。その時における行政としての役割は明確にしておく必要がある。</p> <p>我が町の国道440号における町中区間の改良にあたっては、路線の選定から住民が組織を立ち上げ、バイパス案、現道拡幅案等について何十回も会議を開き、町中の活性化を図るためには実現が困難な現道拡幅しかないという決定をした。そして、住民自ら地権者の説得にあたりとともに、まちづくりの方向性を住民組織で検討してきた。</p> <p>道路整備はあくまでも手段で、目的は地域の活性化であるため、この度、道路が見事に完成したことを受け、目的を実行するためさらに協議を重ねている。</p>                                   | <p>道路整備が、単に交通量や経済効果だけで評価されたのでは、中山間地域の道路はいつまでたっても整備することは不可能である。</p> <p>中山間地域の住民は、日本あるいは地球規模に貢献しているわけであり、国土を守り環境を守るという評価があってしかるべきだし、そのために中山間地域で生活する道路(命の道)の効果や評価があるべきである。</p> |      |
| <p>・地球温暖化の防止</p> | <p>今、地球規模で温暖化問題がクローズアップされており、2005年2月に京都議定書が発効され、日本も1990年比で6%のCO2削減を義務づけられている。</p> <p>我が町も環境には特に力を注いでおり、風力発電や太陽光発電など積極的に導入している。</p> <p>また、森林は町土の91パーセントを占め、大きなCO2の吸収源になっている。この森林を適度に整備することによって、さらに吸収量を高め、都市や企業との連携による排出権の取引や間伐材等による木質バイオマスの有効活用など環境林から経済林として幅広く活用することができる。そうした森林を守り育てていくためにも道路整備は必要不可欠である。</p> <p>現在、環境モデル都市の認定をもらうべく計画を検討中であるが、この取り組みが全国の中山間地域のモデルとなるよう取り組んでいきたい。</p> |                                                                                                                                                                             |      |